

火の取り扱いに注意を！ 11月は秋の火災予防運動

安芸高田市では、過去5年間で住宅火災により8人の方が亡くなり、その多くが65歳以上の高齢者です。年齢を重ねると、火災に気づきにくかったり、避難が遅れたりするなど、リスクが高まります。

11月9日から15日まで、秋季全国火災予防運動期間です。日頃から火の取り扱いに注意して、火災を起こさないよう心掛けましょう。

安芸高田市 過去5年間 住宅火災の主な出火原因 (不明、その他は除く)

〈1位〉たばこ

〈2位〉電灯・電話などの配線

〈3位〉ストーブ・放火疑いなど



身近なものが原因となることが多いため、日常生活の中での注意が大切です！

2025年度全国統一防火標語

急ぐ日も
足止め火を止め
準備よし

安芸高田消防の
マスコットキャラクター
「ひのすけ」



万が一火災が発生した時にいち早く気付くために、住宅用火災警報器を設置しましょう。



暮らしの中に潜む火の危険！ 実際のエピソード

野焼きが建物に燃え移った

風が強い日に草焼きをした結果、火が近くの建物に燃え移った。



乾燥時や風の強い日の野焼きは大変危険です。絶対に避けてください。



ごみを家庭で燃やすこと(野焼き)は、たとえ少量であっても、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」により、一部の例外を除いて禁止されています。

天ぷら油が発火

ガスコンロで天ぷらを揚げていた際、油の温度が上がりがすぎて発火。



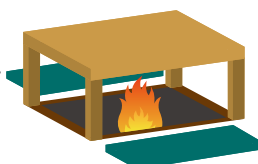
調理中は絶対にその場を離れないでください。



油は200℃を超えると白い煙が出始めます。これは温度が上がりがすぎているサイン。発火温度(約360℃)に達する前に火を止めましょう。

掘りごたつから出火

掘りごたつを温めるために火起こし器へ木製固形燃料(オガライト)を入れて火を付け、掘りごたつの中に入れたまま10分ほど目を離れたところ、出火。



火を使う器具は、絶対に目を離さないようにしましょう。

ストーブで洗濯物を乾かして出火

石油ストーブの上に干していた服が落ちて、火が付いた。



ストーブの上に洗濯物を干すことは絶対にやめましょう。乾いて軽くなった洗濯物は落下しやすくなります。

住吉神社棟札

1591(天正19)年7月

【棟札】

建物の棟上や修理の際、建物名や年月日、願主、大工、祈願文などを記して棟木に打ち付けた木札。

(梵) 奉上尊一宇住吉大明神御宝殿之事

右意趣者護持大檀主大江輝元朝臣廿歳武運長久国家安寧社頭繁昌
并女檀午歳息災延命福寿 于時天正十九年七月申旬子吉祥日 敬白

奉行佐世余三左衛門尉元嘉
社奉行福万市介亮統
祝祠刑部少輔元辰
大工佐伯源左衛門尉
葺手福万余三兵衛尉



幅13.3cm(最大幅)
高さ101.7cm

歴史紀行



安芸高田市歴史民俗博物館
学芸員 古川 恵子

シリーズ
「博物館コレクション」
第32回

毛利輝元が郡山城から未完の広島城に入城したとされる1591(天正19)年4月。それから間もなくして、住吉神社社殿(吉田町)のふき替えが行われ、棟札はその時のものです。大檀主は輝元(1553~1625)とその妻で、棟札にある「女檀戊午歳」が戊午年(1558<永禄元>年)生まれの妻を指しています。中世の棟札に女性が登場するのは珍しいことです。

に祝いの太刀と馬が贈られたことが書状から分かります。しかし、当初元就はこの縁談に難色を示していました。敵対していた九州の大友氏と講和に伴う縁談話もあり、戦国大名となった毛利家を継ぐ輝元には同じ戦国大名の娘が相応であると考えていたようです。

や次男就隆(1602~1679)の母は側室の女性です。中国地方を制した戦国大名、そして豊臣政権下では五大老となった輝元ですが、関ヶ原合戦により滅封された後は、防長2か国で毛利氏再興に力を尽くします。その波乱万丈の人生を共に歩んだ南の御方。彼女の資料は乏しくその生涯を詳しく知ることとはできませんが、安芸高田市に残されたこの棟札は彼女の願いが込められた貴重な資料といえます。

※年齢は全て数え年
【注】：穴戸隆家書状と住吉神社棟札は企画展「毛利輝元の原点」で展示予定

